

独房の外には昔も緑の風が吹いていた

< 通訳のソワット (Sobhhsobat) さんが語るトゥールスレン虐殺博物館 >

聞き書き：中能孝則

父も母も殺された

ソワットさん 42 才はトゥール・スレン虐殺博物館の説明のためにバスに同乗して下さった、ガイドの方で、日本語がとても堪能であった。

聞くところによるとソワットさんは 12 歳の時に弁護士であったお父様をポルポトに虐殺され、その後学校の先生でお母様もポルポトに虐殺されたそうです。

兄弟は 7 人でソワットさんは 5 番目、お一人の方が病気で亡くなったが後の方は元気でいらっしやるとのことでした。



< 通訳のソワットさん >

3 年 8 ヶ月の悪夢

ポル・ポトとがもっとも嫌ったのは自分に盾をつく人であり、意見をする者などすべて殺そうとした。

一方農村部の人たちはとても可愛がったそうであるが、その理由は『自分の言いなりになる人間であること』したがっ



< 10 人同時にはめられる足かせ >

て、学校の先生、弁護士、医者をはじめ高学歴で優秀な頭の良い人から真っ先に殺されたそうである、

最後は誰も信じられなくなった

ポルポト軍の兵士は 18 歳 ~ 28 歳までと非常に若い人たちで組織されていて、この兵士たちが虐殺の中心的存在で、今でも存在している人もいるとのことでした。ポルポトはやがてこの若い兵士たちも信頼できなくなり、最後は自分に服従していた兵士たちも殺し始め、最終的には小さいころからの親友であった 5 人の仲間も殺してしまいました。

その拷問の様子は狂気の沙汰としか表現できないが、もはや人間の姿をした化け物の仕業としか考えられない。



<拷問に使われた道具>

子どもたちだけの共同生活

両親を失ったソワットさんたちは、他の多くの子どもたちと子どもだけの共同生活をする事になり、食事は1日2回で、朝から晩まで農作業や灌漑用水の土手づくりなどに借り出され、ポルポト時代の約4年間は、学校に行くことはまったくなかったそうです。

内戦は続いたが

ポルポト亡き後も内戦は続いたが、学校に行くことはできた、そこで、必要なところは小学校時代のものからもう一度学びなおし、やがて上の学校へと進級し、日本語は JACA 国際センターで学ぶことができ、福岡に1年間滞在したこともあるそうです。

これからの夢

正直に言って、今は二人の子どものことを中心に考えており、(中学生と高校生)自分のことはあまり考えられない状況であるが、なんと云っても

一番は平和であること。

独裁者はもうたくさんである。

外国の企業を誘致してビジネスの発展をして欲しい。

外国から多くの観光客に来て欲しい。子どもたちには世界に学んでほしいと思っているが、現在はお金がなく、今を精一杯生きている。

日本との関係については、プノンペン市内を走っている自動車の約50%が日本の車で非常に人気が高い、バイクは65%以上が日本のバイクで、ホンダ、スズキと人気は高い。

学校や病院もまだまだ不足していて、このようなことに援助をしてもらえると大変ありがたいが、自分たちも頑張りたい。

どこの国にも似た様なことがあった

虐殺といえば直ぐにヒトラーとポルポトが上げられるが、その昔日本でも形を変えた虐殺があったのではないのでしょうか。戦前戦中大勢に反旗を翻した者は捕まえられ拷問にかけられ、その後処刑されたと思います。

それぞれの背景が違うので一概に同じライン上で語ることはできないが、皆さんが見た事実を学びに変えて、間違った権力者を作り出さないようにしなければならぬのではないのでしょうか。



<ソワットさんの説明に熱心に聞き入る団員>